

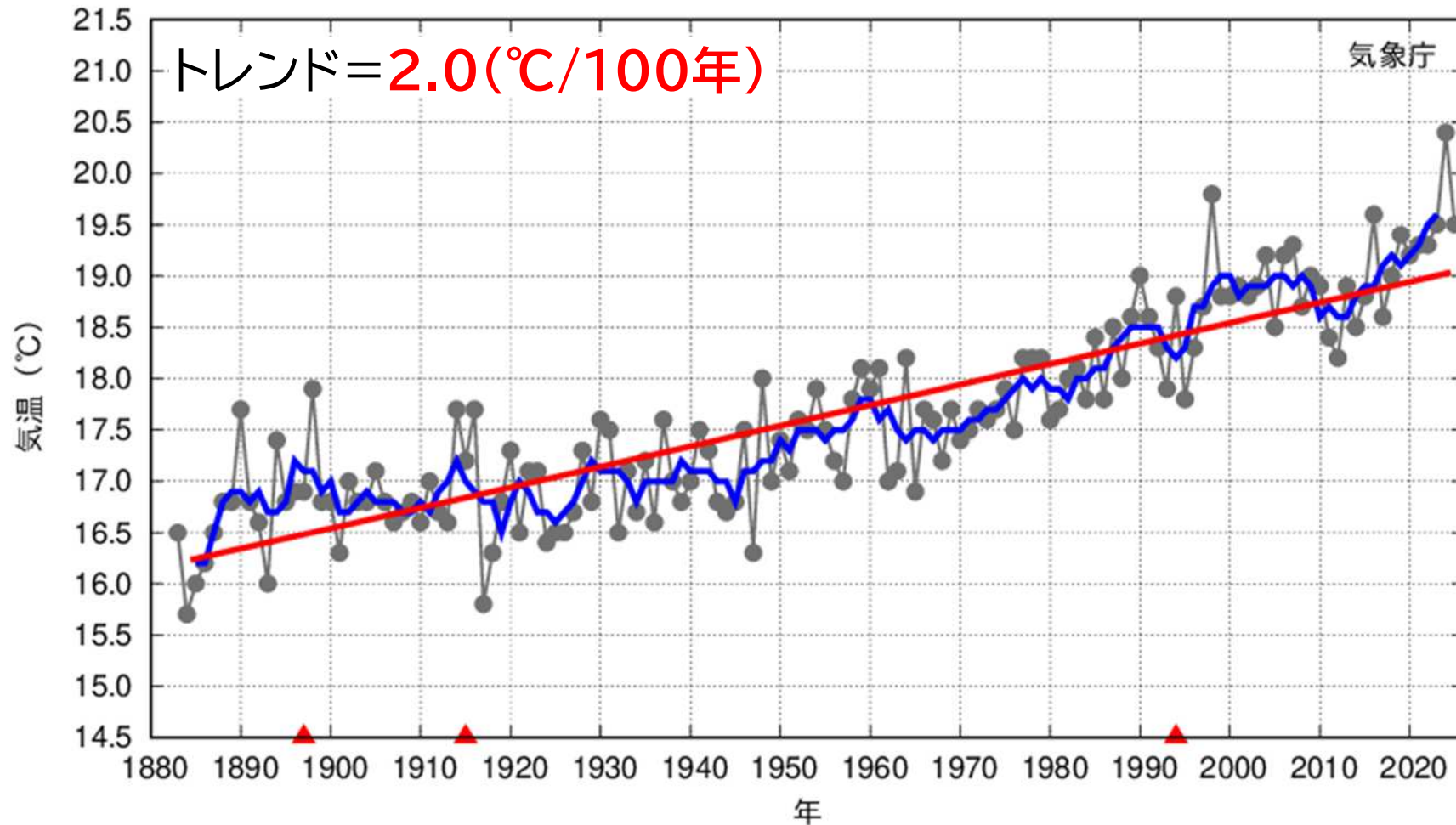


気候変動による暑熱・健康等への 影響に関する研究 (鹿児島県)

鹿児島県環境保健センター

鹿児島県の年平均気温の変化

鹿児島県の年平均気温



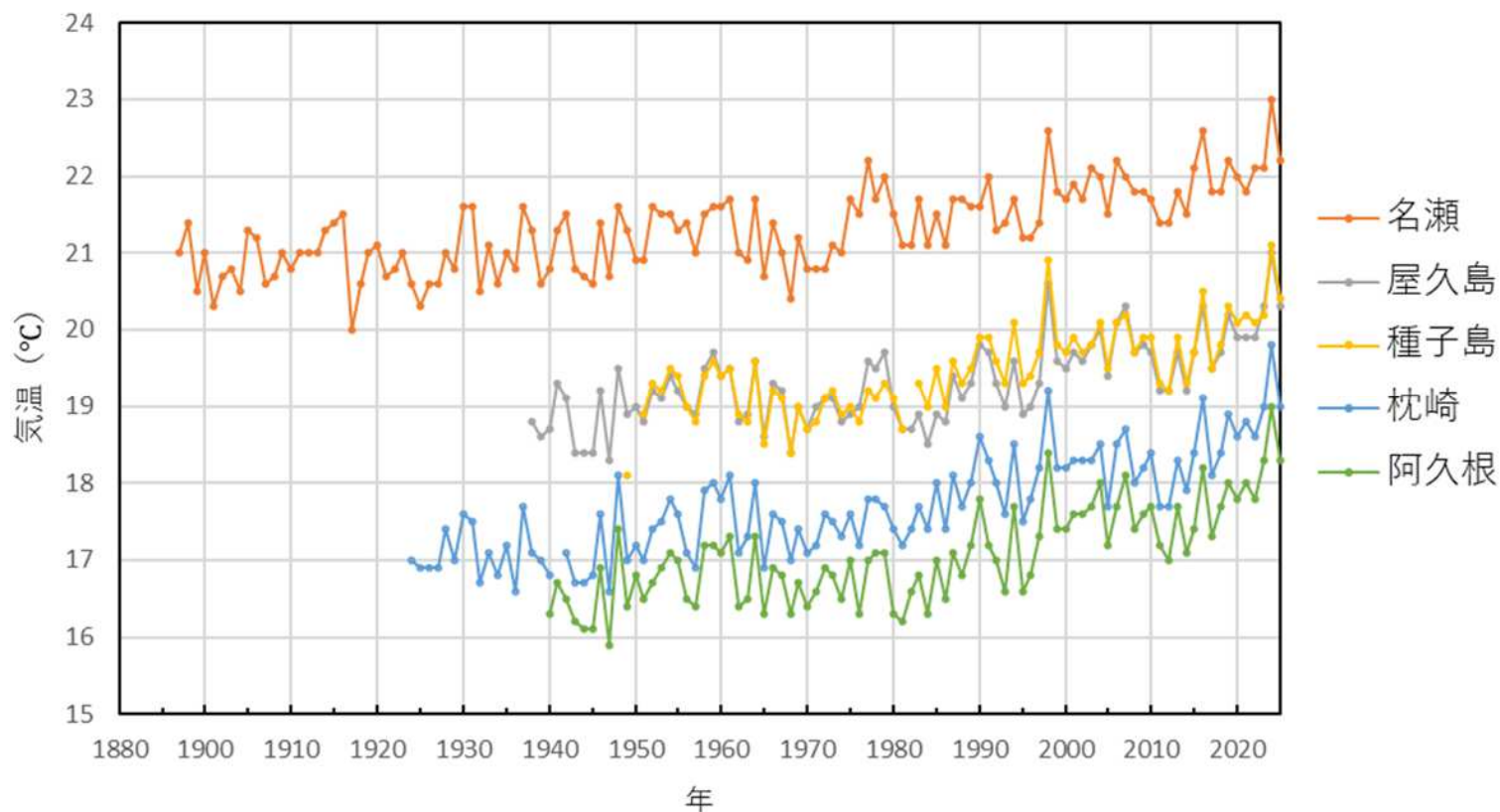
出典:福岡管区気象台より提供(速報)

気候変動や都市化の影響等により、鹿児島県の年平均気温は100年あたり2.0°Cの割合で上昇している。

鹿児島県の気候

太平洋と東シナ海に囲まれた南北約600kmにわたる広大な県土を有している。

気候区は温帯から亜熱帯に至り、全国の中でも平均気温が高く、温暖な気候に恵まれている。



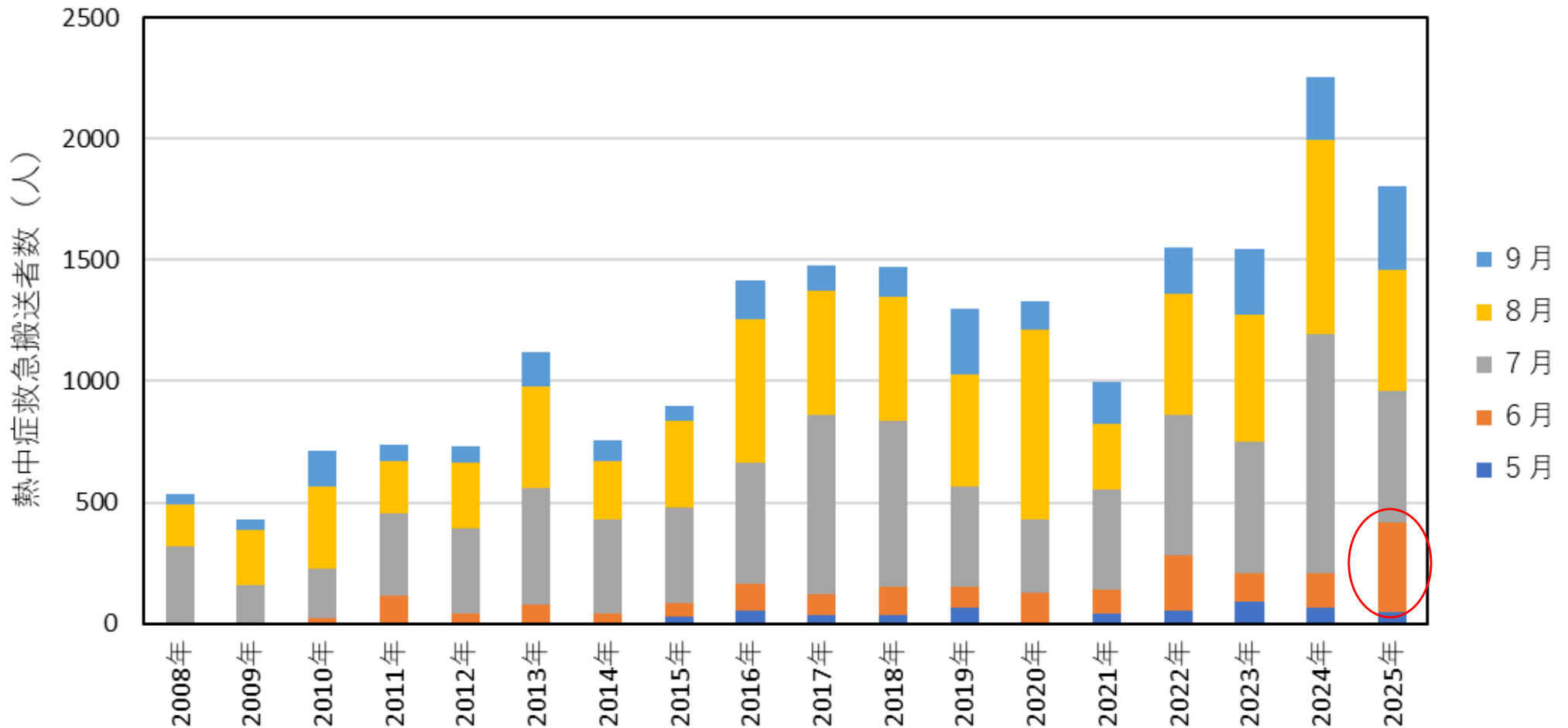
出典: 気象庁データより作成

気象庁が観測している県内の他地点についても長期変化傾向として、年平均気温は上昇傾向である。



本県の熱中症による救急搬送者数

○ 調査期間： 2008, 2009年7~9月, 2010~2014年, 2020年6~9月, 2015~2019年, 2021~2025年5月~9月



出典：消防庁データより作図

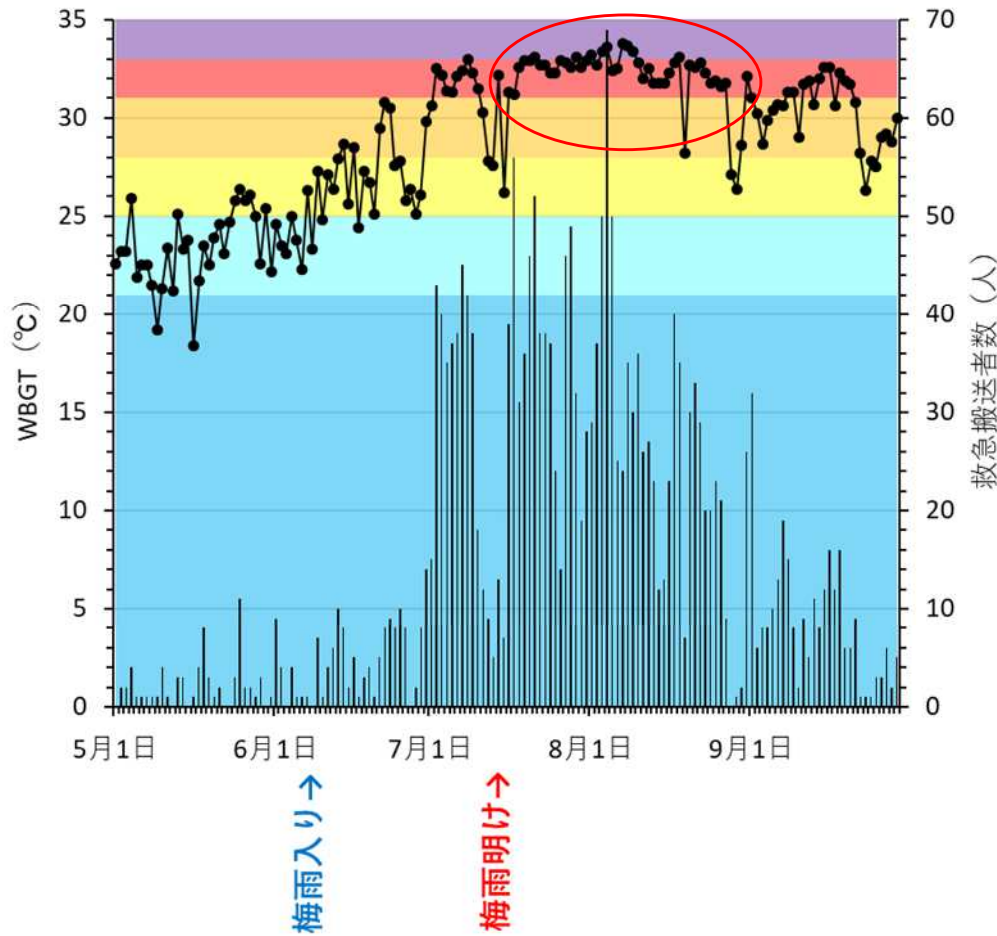
2023年	全国	91467人
2024年	全国	97578人
2025年	全国	100510人

鹿児島県	1546人
鹿児島県	2253人
鹿児島県	1803人

日最高WBGTと熱中症救急搬送者数

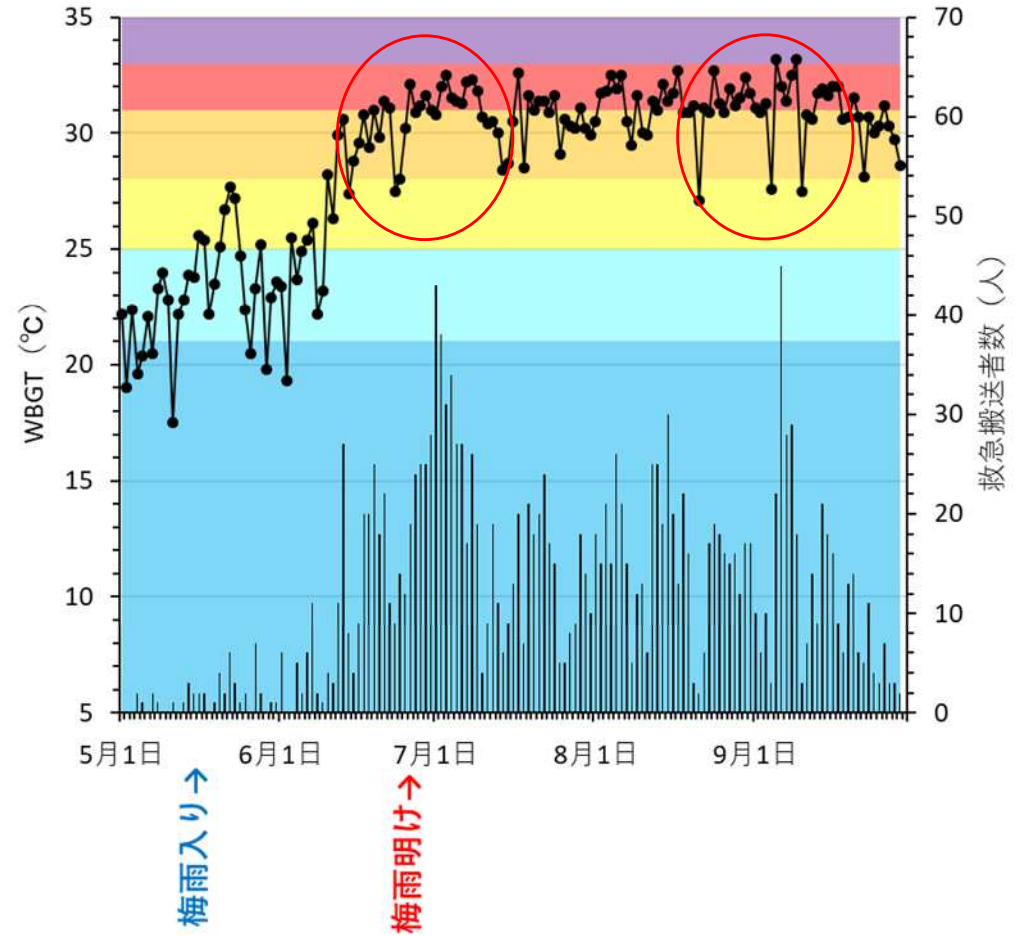
■ ほぼ安全
 ■ 注意
 ■ 警戒
 ■ 嚴重警戒
 ■ 危険
 ■ 熱中症警戒アラート
 ■ 熱中症救急搬送人員
 ● 日最高WBGT (鹿児島)

2024年熱中症救急搬送者数(県全体)



2024年 梅雨入り 6月 8日頃
 梅雨明け 7月16日頃

2025年熱中症救急搬送者数(県全体)

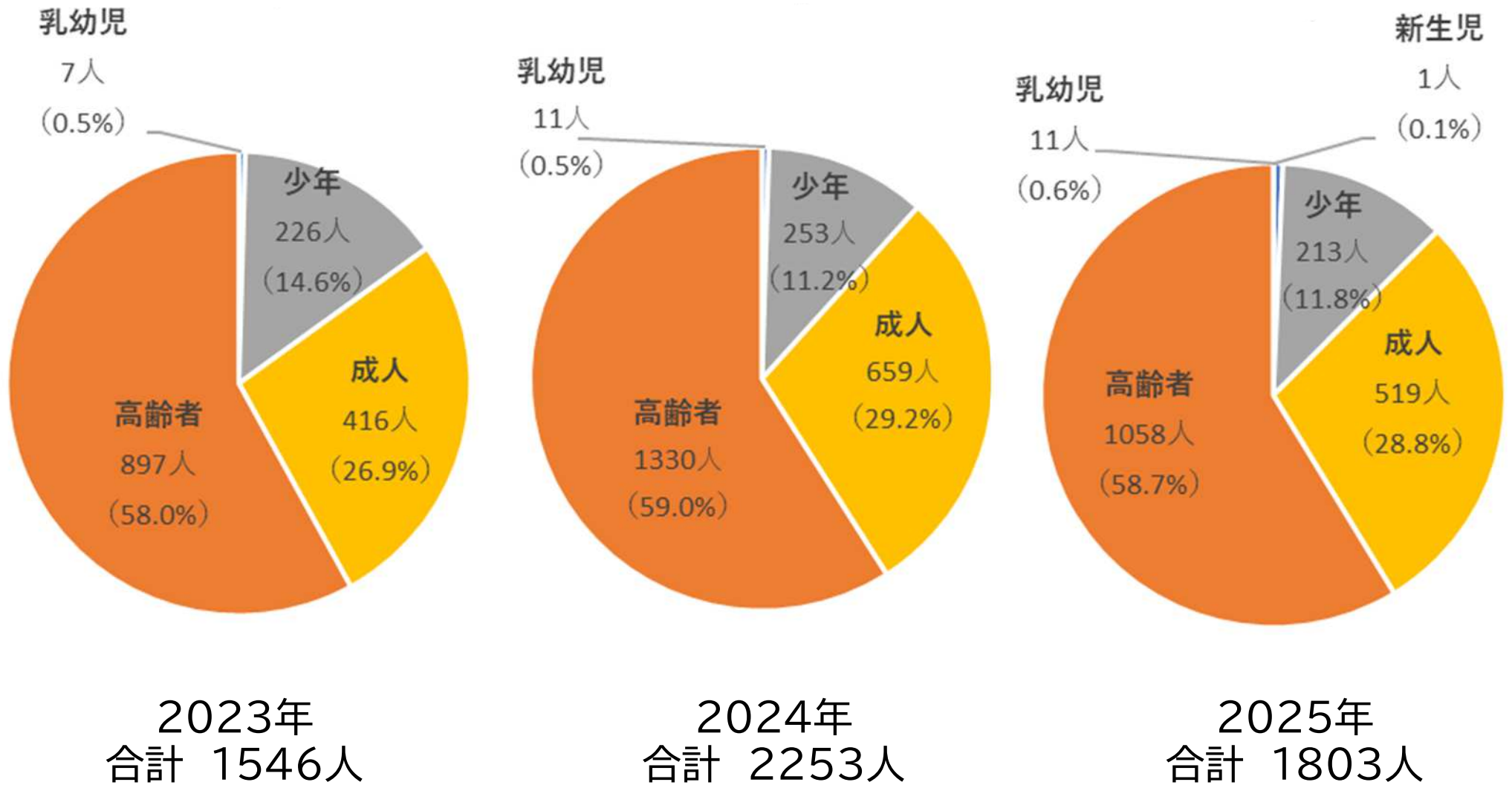


2025年 梅雨入り 5月16日頃
 梅雨明け 6月27日頃

熱中症による救急搬送状況(県全体)

県全体の熱中症搬送者数の3か年の比較

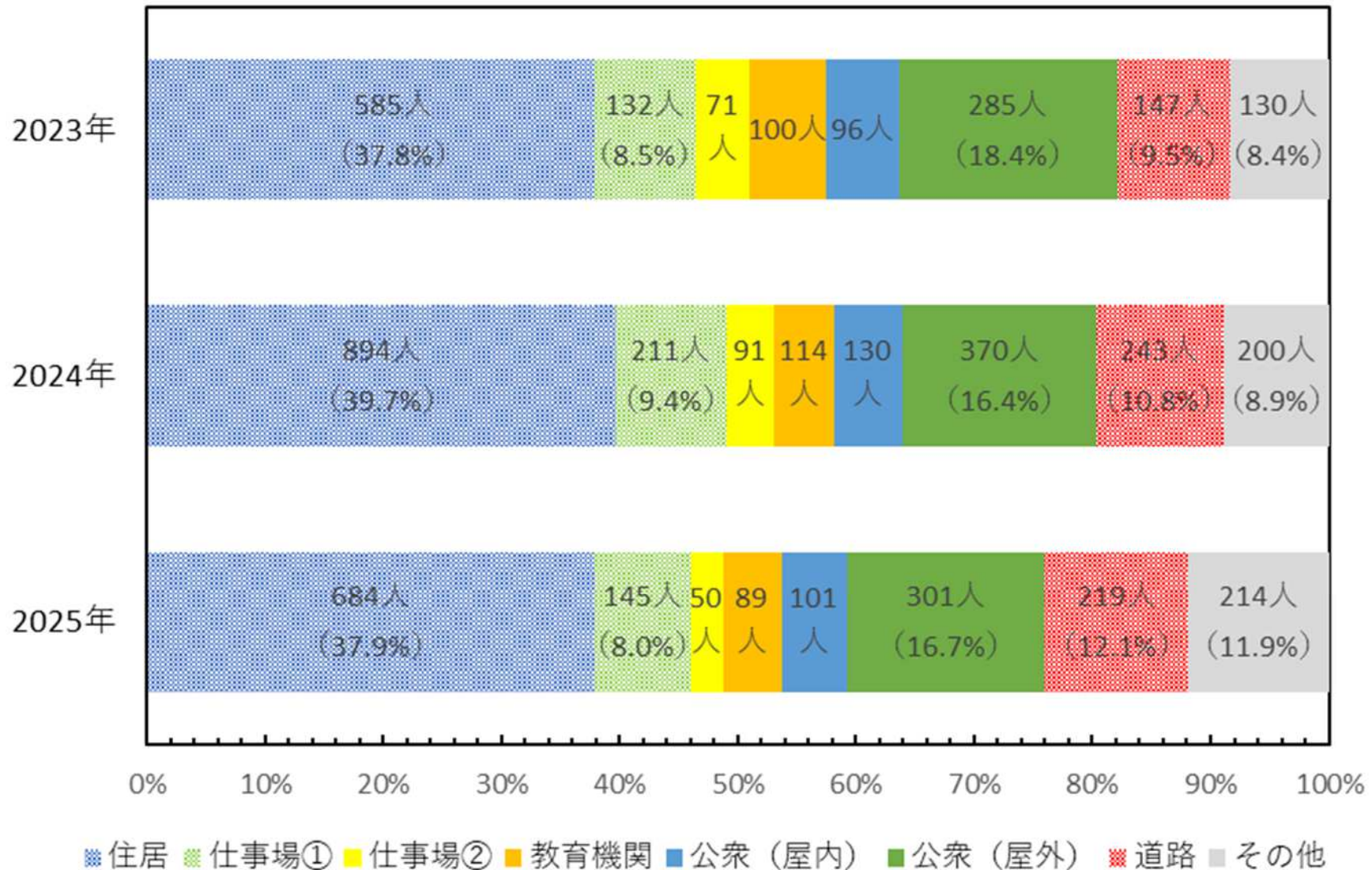
○ 年齢区分別の割合



熱中症による救急搬送状況(県全体)

県全体の熱中症搬送者数の3か年の比較

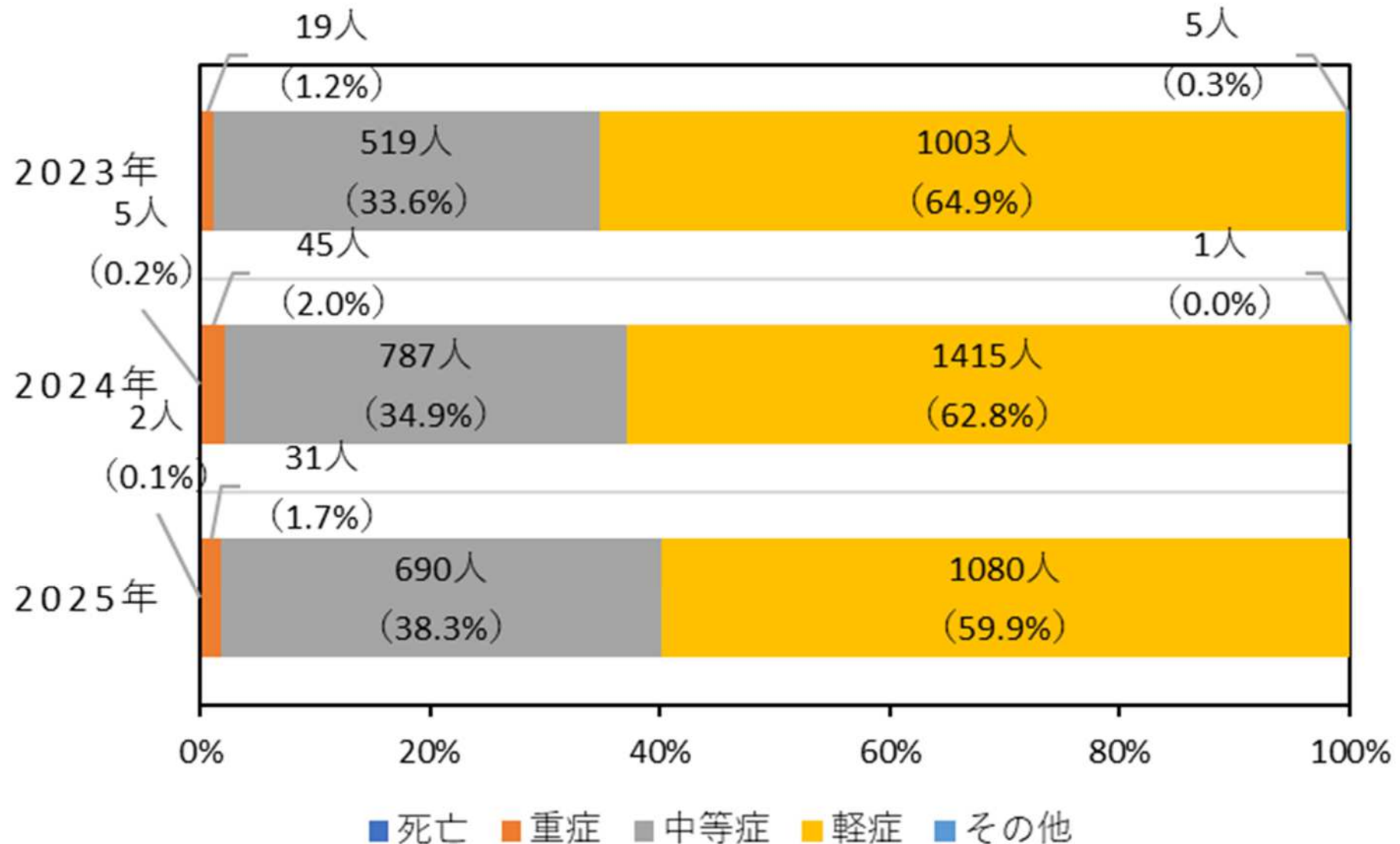
○ 発生場所別の割合



熱中症による救急搬送状況(県全体)

県全体の熱中症搬送者数の3か年の比較

○ 初診時における傷病程度別の割合




調査内容

○ 本県の地域特性に係る検討

国が提供するWBGT及び気象データと、県内熱中症救急搬送者数（以下、搬送者数）データとの関連を地域別に分析し、地域特性について検討

県内の気象データの把握

環境省と気象庁が提供する県内WBGT等のデータを収集

- ・ 環境省熱中症予防サイト等  etc...

熱中症発生状況の把握

県内消防本部等が有する搬送者数データを収集

- ・ 県消防保安課より提供 

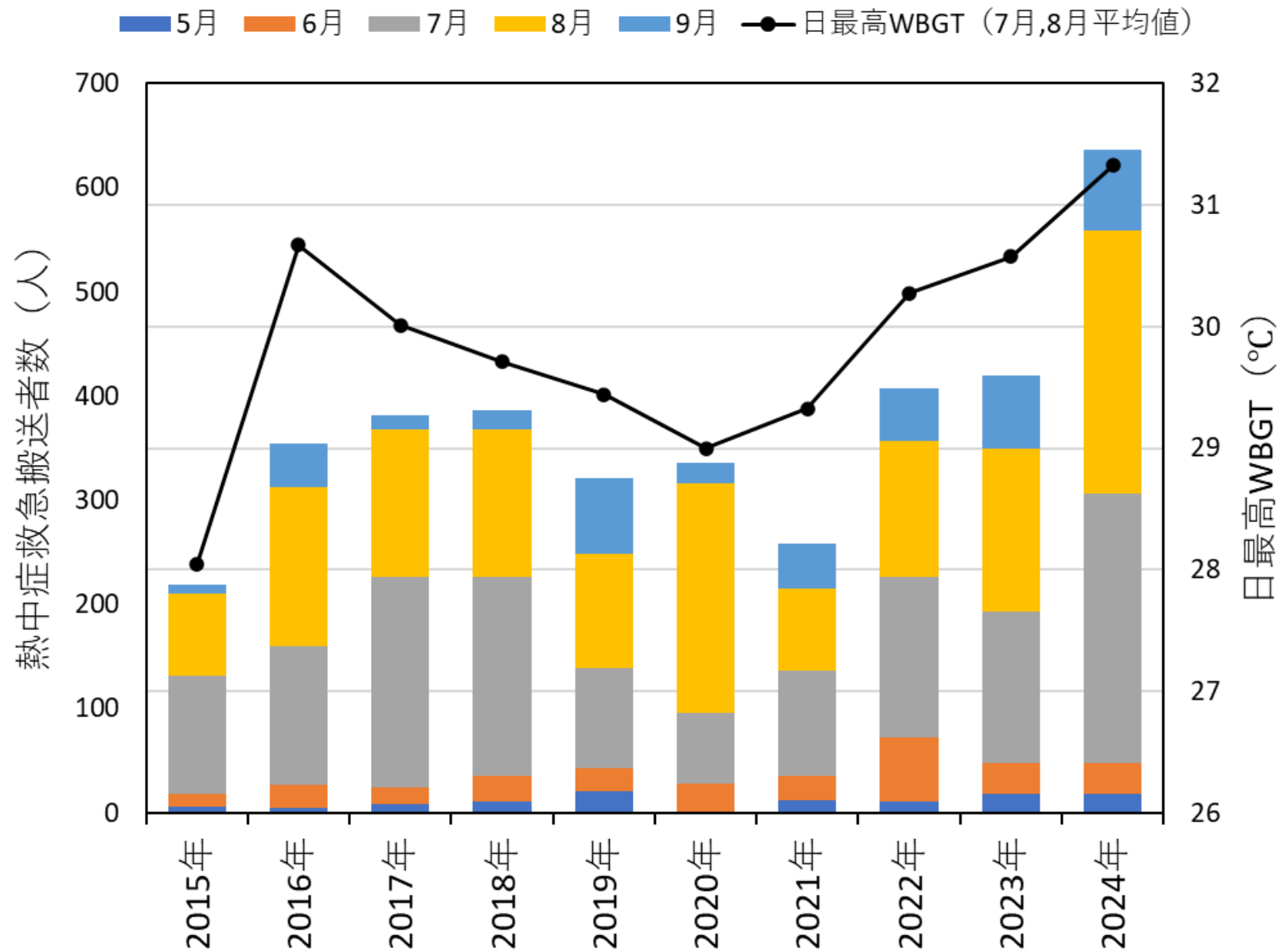
使用したデータ

- ✓ 対象期間：2015年～2024年の5月～9月
(2020年は6月～9月)
- ✓ 対象地点：鹿児島市

気象データ：WBGT実測地点「鹿児島」

搬送者数データ：鹿児島市消防局管内

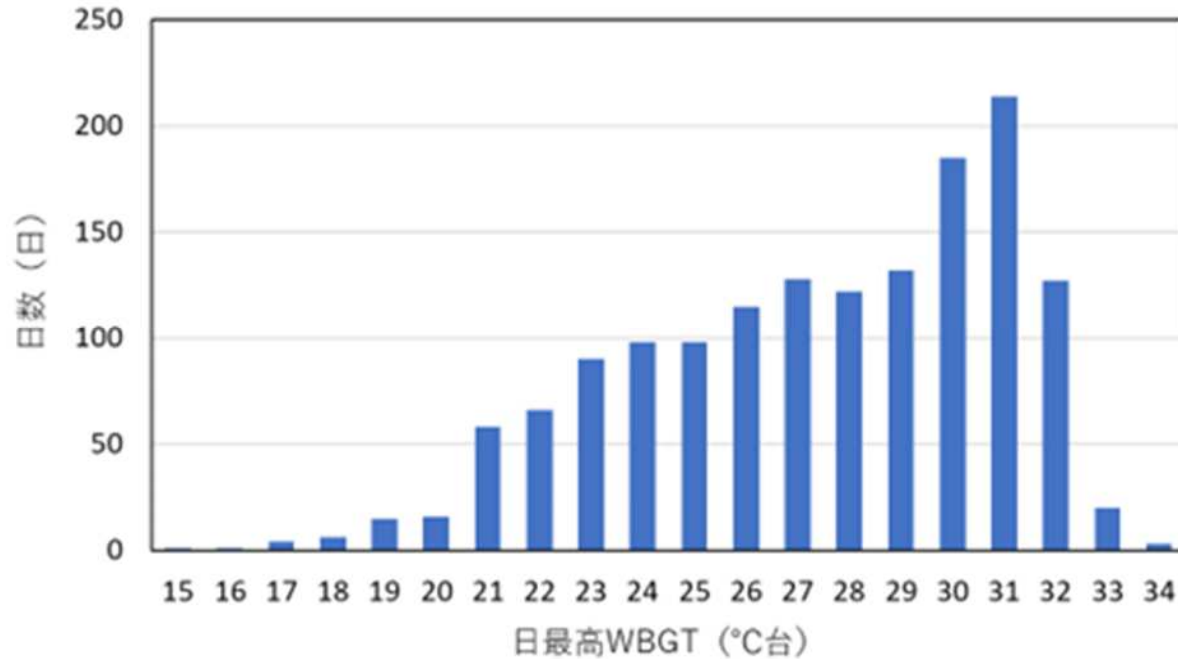
搬送者数の経年推移と日最高WBGT



(2020年は6月~9月)

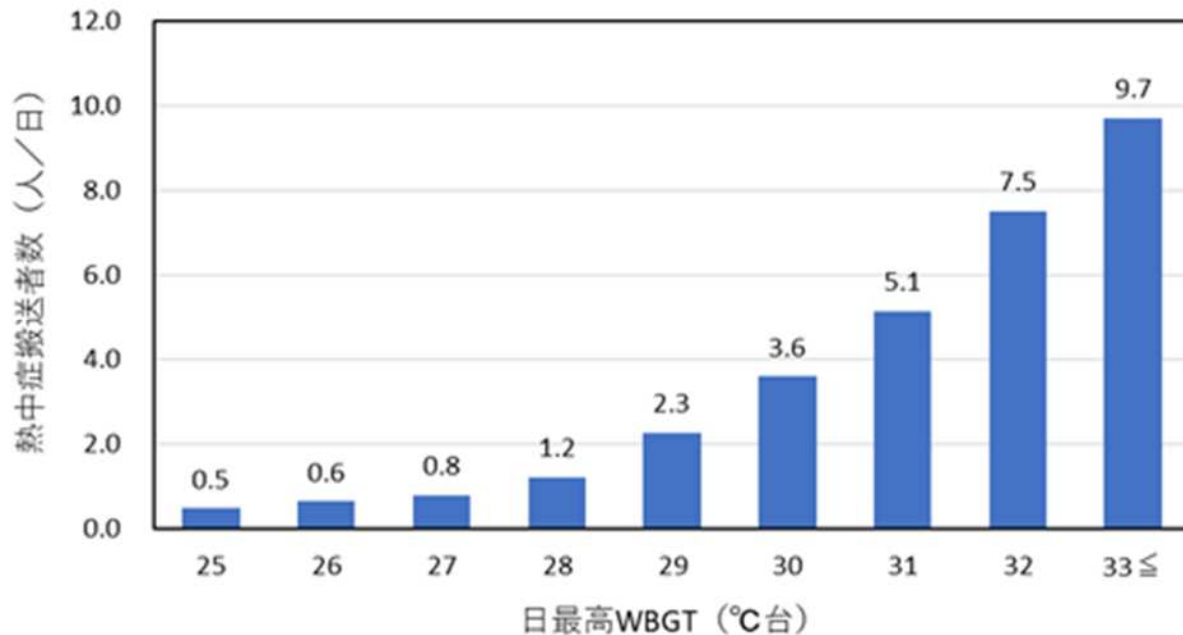
日最高WBGTごとの出現日数と搬送者数

2015～2024年



10年間の日最高WBGTごとの出現日数

31°C台の出現日数が一番多く、次いで30°C台で、26°C台～32°C台の出現日数が多かった。

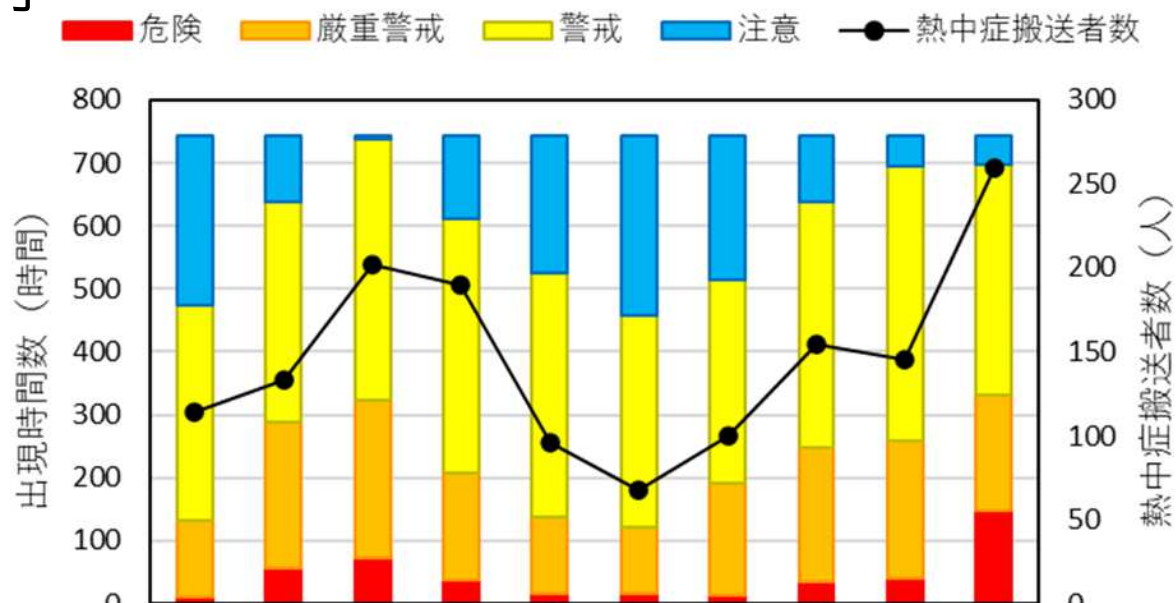


10年間の日最高WBGTと熱中症搬送者数をもとに日最高WBGTごとの1日あたりの熱中症搬送者数

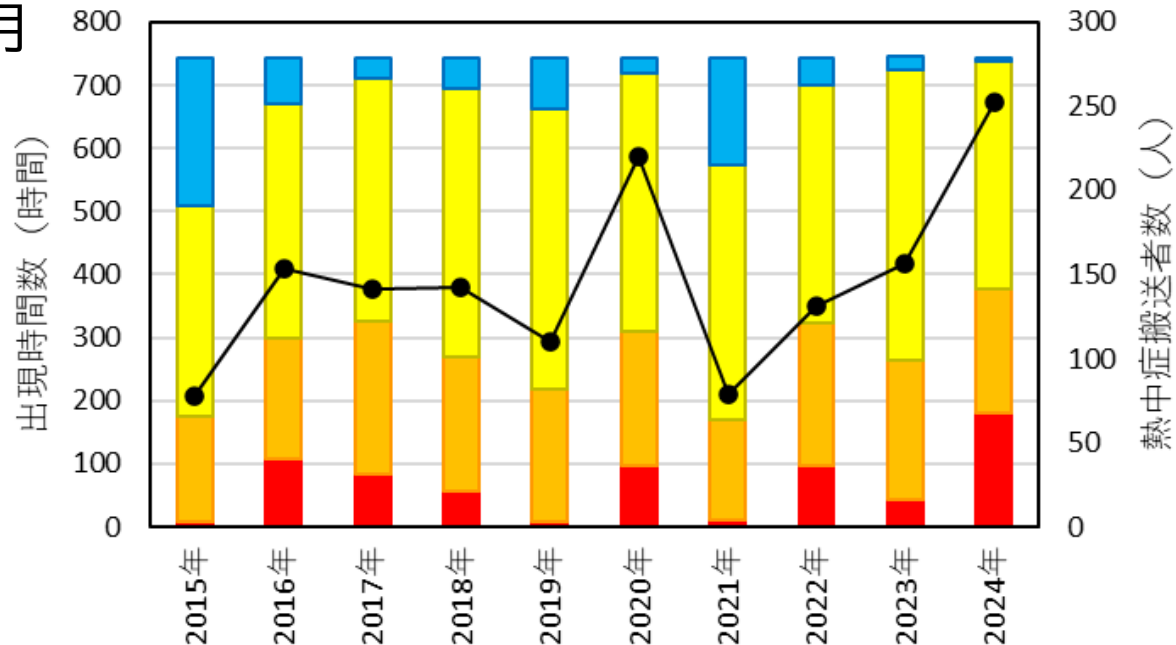
日最高WBGTが29°C前後を境に熱中症搬送者数が増える傾向

WBGT区分別の出現時間数と搬送者数

7月



8月



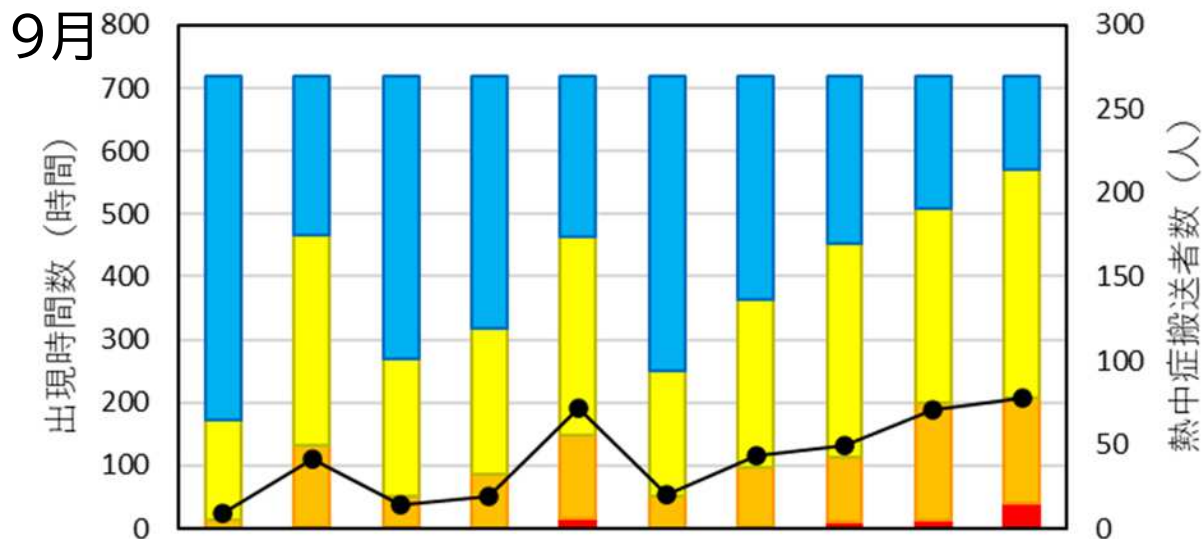
月ごとのWBGT
区分別の出現時間数と
熱中症搬送者数の経年推移

2017年
7月に厳重警戒レベル以上の出現時間数が多かったことで暑熱順化が進み、8月は7月と同様のWBGT区分別出現時間の傾向であっても、搬送者数は減ったと考えられる。

2020年
7月は厳重警戒レベル以上の出現時間数が少なく、暑熱順化が不十分なまま8月を迎えたため、熱中症搬送者数が増えたと考えられる。

WBGT区分別の出現時間数と搬送者数

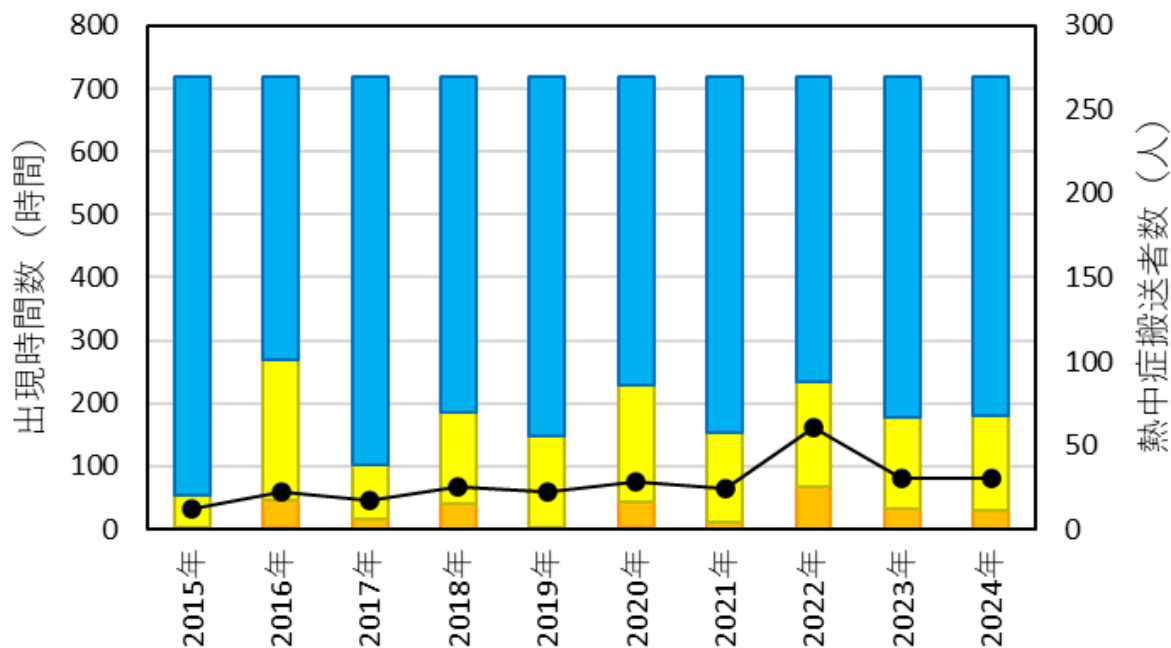
危険 厳重警戒 警戒 注意 ● 熱中症搬送者数



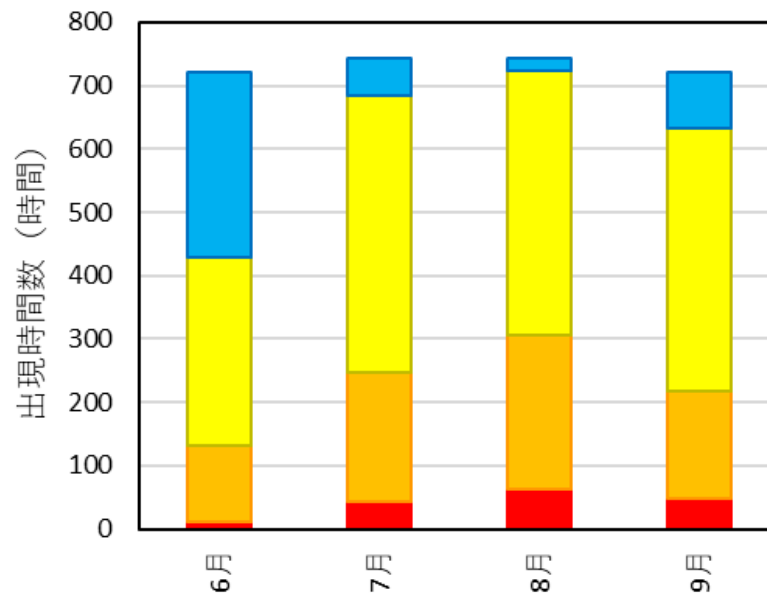
9月
近年、厳重警戒、危険レベルの出現時間数が多くなってきており、熱中症搬送者数が増える傾向が見られる。

(参考) 2025年

(参考) 6月

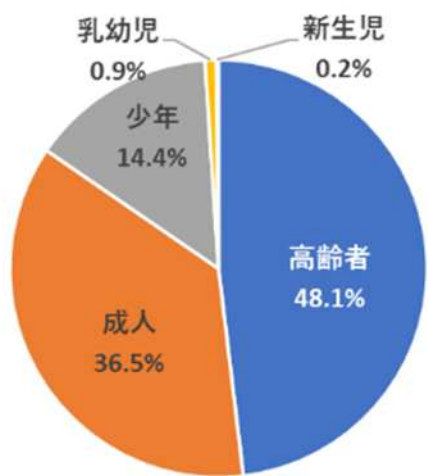


危険 厳重警戒 警戒 注意

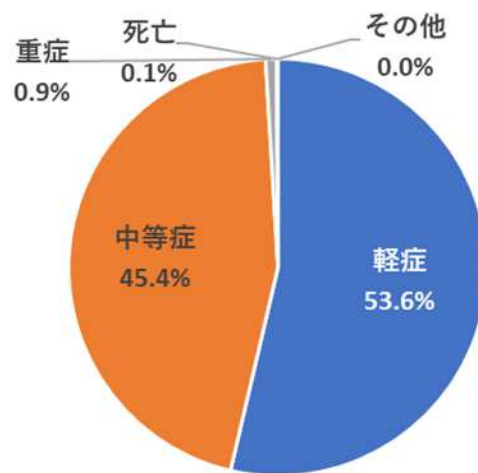


WBGT区分と搬送情報との関連

2015～2024年



年齢区分別の割合

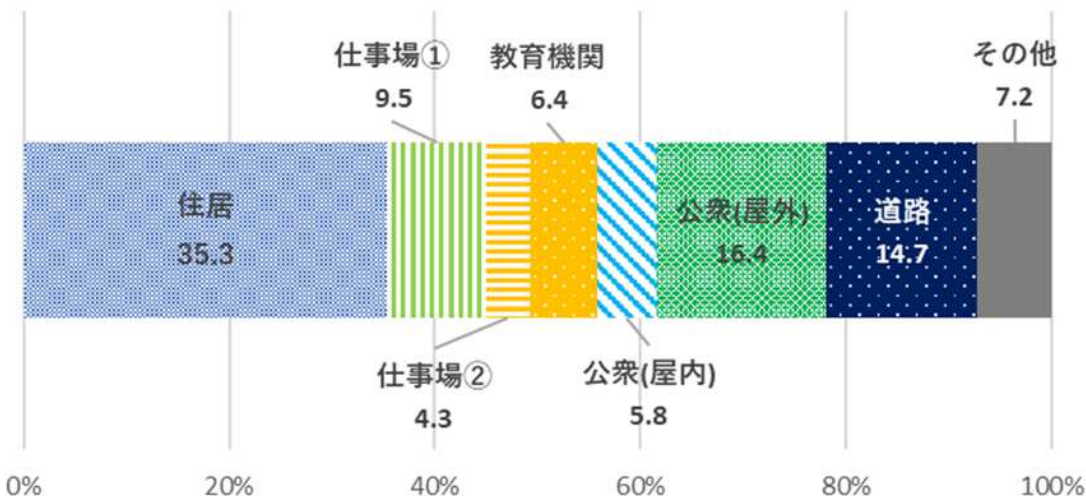


傷病程度別の割合

熱中症搬送者数は、毎年、**嚴重警戒と危険レベル**に多く、両レベルの熱中症搬送者数の割合は、その年の全体の**81.3～94.8%**を占めていた。

傷病程度別

2022年～2024年は、軽症が約64%、中等症が約35%と10年間の割合に比べて軽症の割合が約10%高くなっていた。



発生場所別の割合

発生場所別

毎年、住居の割合が最も高く、**嚴重警戒と危険レベル**では、公衆(屋外)や道路などの屋外の熱中症搬送者数の割合が高くなる傾向にあった。